夕刊
磐城新聞
一月十二日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢(郵税拾五錢)
廣告料 普通欄 金六拾錢 特別欄 金九拾錢 (五號十二字詰一行) 金一圓 (場所指定一行 并税増)
編輯印刷兼發行人 柏木 晳 福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞 合名會社
登録交換電略(タイライワキ) 平局私書函第十二號 電話五六四番
(日曜祭日翌日休刊)

中學高女 卒業期の諸君へ 下

上級學校志望者は絶對的迂遠な道を取るな。

甘南備三十二

本當に自己を知つて適所に自分を導く事の出來る最もよき指導者はやはり自分以外にはないものである。又中には二、三年間働いて學費の多少なりとも作つてからでもおそくはあるまいと殊勝な考へをもつ者も有るだらう、が然しそれは家庭の都合で是非ない者は致し方もないが成るべくは多少の無理をしても迂遠な道は辿らぬ樣にしてほしい。全く前述の通り家庭の都合とは言へ、自分は此の點で苦い經驗を持つ一人なので弱氣と青春の意氣に燃ゐて居る諸君には絶對注意を必要とするものである。事實就職をしてから單調な生活は諸君に倦怠を覺えさせずにはおかない、さうして初めの期待は全く裏切られる其れから勉强をして上級學校に通まふと思て一旦職に就けば其願ひは容易に達せられないのみか遺憾ながら其の時は時機がおそい樣だ口に理想を稱へ希望は未だに失せずとも其の踏む處は不知不識の間に世俗の惡習に同化され、現實の事物にのみ捕はれ刹那的の快樂を以つて至上とするに至るであらう。

斯くして全く志望は斷念し不幸ながらも其の職に甘んせねばならない、さればとて元より好まざる處なれば何んで格別の努力を拂ふ平々凡々、唯首のつながる程度に働くのみ、閑散なタイムは決して善用されるべくもなく其考ふる處は俗事のみ畢竟する處前述の樣な生活を續ける者が多いのである、故に私は上級學校志望者は迂遠な道を取るな、直ちに進め、あくまで進めと叫ばずには居られないのである。働く者は少くとも二十年辛抱せよ其の辛抱たるや亦大低な物では駄目だ上司の命令は絶對服從だ、無理でも服從せよ、すべからく見出さるべく働けだが悲慘な苦闘を續けても其報ひられる處は餘りに少ないではないだらうか、如何に技術を練磨しても身に經驗を有しても上級學校出と比肩して進む事は許さるべくもない、差別的待遇を受くる事は掩はれぬ事實である此處に至つて私は卒業生はすべからく上級學校に進め萬難を排しても進めと叫びたい。諸君よ、學閥打破は決して實行されては居ない現在の進級は實力ばかりでも駄目だ、又實力を發揮すべき事柄も見出されない進級の秘訣は要領である、官海游泳術を必要とする誠實一方でも駄目だ、小才の利く人間に限る、でなくば學閥利用にかぎる、されど格別の榮達を望まざる者はこつ／＼とやれ其結果は問ふ處でない、又顧る必要もなからう。激甚なる競爭渦中にあつても己は平然として宛然虚空の星を見る如く心靜かなる物があるであらう、さらば諸君よ、熟慮決行せよ、健在なれ。

無意味

磐六山人

高鍋の姉さんどこに

大學語釋

○氣と云ふものがある、此は理と共に天地萬物を生成する元素である、理は形なり、天地萬物その各々に就きてその最も正しき當然の則なのである、父は子に慈にあるべきだ又子は父に孝であるべきだと云ふのが父子の間に於ける則である如きそれである…

居候で
をさまつてゐる吾れ
けれど氣がねと
サイフの輕さには
心もおどらない
じめ／＼した
憂鬱な心は
いやが上にも
苦痛に拍車をかけ
その苦痛を墓場に
葬りたい
けど……
それも不可能である
三ッになる男の子が
奈美子に
抱かれてやつて來た
『坊やはいくつに
なつたの』
子供は年は
『しらんとよ』
二人はをもはず
顏を見合せて
笑つた……が
また……すぐ!
もとの……
憂鬱な心が蘇つて
淋しさがつのつて來る。

くちづけ

菅泉京

蜜の樣な甘き感覺
忘れ得ぬくちづけの刹那
強く呼吸づいて胸のあた
り
姉の胸の鼓動はげしく
靜かなる如月の雪の夜
部屋また寂として音もな
く
別れを告げに來し吾は
ぬれた眸で姉をみる
沈默が流れて
嗚咽して姉の膝へ
見上げし時姉の瞼に
こみあげくるふたりの感
情
堪ゐ切れずして身を姉に
委せて面をふせる瞬間
あゝ忘れ得ぬ
蜜の如き甘き感覺
くちづけのせつな。

生きる形骸

葉山修二

のんびりした
生活は空の中にも
みられないのか
今日も雲が
疲勞れた姿を
よろばいながら

拈華微笑

◇道がは腰蘚山師隱れ場所迄坑内と來たもんだ ◇成る程ルの字が拔けてゐた。合戸のゴールド話影薄くなる ◇あす第二師團の凱旋兵通過。葵心向陽の丹忱以て皇軍を讃へん ◇値が上つて數量減らず。鐵道納炭に朗かなニユース ◇磐女で牝雞晨を告げさせる練習 ○……○

はこんでゐる

社會の今日

I月13日

△書家英一蝶歿す、年七十三(享保一〇) △潛水艇隊創設(明治三八) △平和條約を公布(大正九)

○

正月や木の神祭る木曾の軒、 槖石
客室や鏡の前の水仙花 碧梧桐

講談 お蘭陀お蝶 (224)

渡邊默禪作 布施長春畫

『そりや龍馬を一切當館へ足踏みさせぬ樣にとの御意でござりまするな』

『そうぢや、屋敷内は勿論塀外門前たりともその姿を見せてならぬと、屹と申し渡せ』

『畏まりましてござりまする、しかし若さま、何故左樣な儀を突然仰出されまするか、龍馬奴へ一應仔細を申聞かせねばなりませぬで恐れながら御勘氣の次第を私へまでお洩しを下さいますやう』

『何、仔細を聞きたいとなま、それは可い／＼』

『いえ、可ろしくござりませぬ、是非承りたう……』

『呆氣者奴―何事も言はぬが花と思ふて故意と差控へて居つた予の情を仇に强いて甥の赤恥を明るみへ晒そうとする、よい承りたいとあらば申し聞かそう、前へ出い』

『はゝ』

眞輝朝臣は恐ろしい見幕であつた、波多野左兵衛は五十年配の思慮に富んだ忠實な家臣で清橋家の柱石と云はれてゐた、髮を總髮にして肩衣袴の折目正しく御前に畏まりながらも不審の眼を絶えず朝臣の一擧一動に注いで細かに其の心を讀むやうに見えた。

『左兵衛聞け』

朝臣は前へ乘出して

『當家召使男女の風儀を正し、假初にもみだらがましいことのなきようにと豫々父から仰出さるゝ其のお言葉は其方しかと心得るであらうのう』

『御意の通り平生其の邊の心配りも油斷なく仕り居りまする』

『口びろいことを申すなつ左程取締が行屆いてゐるなれば、今度の如き奇怪の椿事出來いたす筈がないではないか』

『奇怪とは?』

『其方の甥、龍馬と召使のこゝ、こ蝶とが、ふゝ不義をいたしたわッ』

『はゝい』

左兵衛はふつと顏を擡げた、眞輝は眼を釣り上げて息ざし促しく右の手にぎり／＼と蝙蝠扇を摑んで此方を睨らんで居られる。

『それは只今初めて承りますること、驚き入つてござる、若さまの耳に達して左樣お認め遊ばす程なれば定めし不義の證據も見屆け置かねばなりませぬ何卒其邊の事柄も御内示下さる樣』

『いろ／＼に面倒な事を申す奴ぢや、證據はたしかな見知人、しかも二人三人』

『して其の見知人は?』

『申されぬわッ!』

『そりや又何故に』

『申されぬから申さぬのじや、蒼蠅の退れつ!』

『あいや退りませぬ』

左兵衛はきつとなつて

『常とは異ひ從二位さま、奈良へお出ましの御留守中に左樣な不爲体がございましては此上なき拙者の落度にも相成りまするで篤と詮議の上に實否を糺しそれに相違なくば先づこ蝶へ暇を申付け親元へ追ひ返さねばなりませぬ』

『な、な、何ぢや、こ蝶へ暇をとらす?そ、それはならぬ、それはならぬ』

『とは、又何故に……不義成敗に片手打といふことはない筈』

『いや、こ蝶に科はない、それを唆かした龍馬が惡い龍馬を窮命いたせ、龍馬を!』

『勿論のこと、武士の身として不義を働く樣な奴は直に切腹申付けまする』

『切腹とな、そりや併し餘り慘い、腹を切れば血が出るからのう』。

ラヂオ

十三日…(金曜)…

仙臺 JOHK

△前七、〇〇 八、〇〇A ラヂオ体操
△九、〇〇 氣象
△九、一〇H 料理献立(牡蠣の御飯) 中村光三
日用品値段
△一〇、三〇A 家庭講座(現代生活と香道の實際) 西山宗居
△一一、五〇 二、三〇H 第二師團凱旋狀況…第三日 長谷部步兵第三旅團長凱旋
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇 ニユース
△四、一〇 大相撲春場所狀況…第一日
△五、三五A 受驗講座(和文英譯) 岡田實麿
△六、〇〇 (子供の時間) 唱歌と童謠 JOAK唱歌隊
△六、二〇 コドモのシンブン 村岡花子
△六、二五 國立公園特別講座(大雪山) 北大教授農學博士柄内吉藏
△六、三五 カレント、トピツクス ハロルド、バーマー
△七、〇〇A ニユース 氣象 積雪量
△七、三〇H 凱旋歌と管絃樂(多門師團凱旋歡迎の夕:第四夜)
△七、五〇H 琵琶(南嶺の戰) 牛田錦崇
△八、二五H 箏曲(一、凱旋 二、松竹梅)
A 連續講談(淺野三勇士) 龍齋貞山
△九、三〇A 時報 ニユース 氣象

廣告

平町新川町 木村病院 電話一六四番

cafe 喫茶と食事 昇平 隣南館樂聚 電話四六番

專門 一般內科
內科ハ何デモ診療致シマス 呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五(電話一八一番)
川井內科診療所
醫學士 川井重之 女醫 川井安子

暴騰をよそに超廉賣!!
斯界の權威……大塚靴
自製耐久無比
◎學生靴 ボックス半靴 五圓より 同編上靴 六圓より
◎紳士靴 女學生通學靴 五圓より
弊店自慢の製法と新形流行の魁……
▲絶好の御買ひ時……
大塚製靴部 平・田町 電話七十七番

江戸前
當店に於て自慢の大蒲燒 割烹 壽司 開業以來
特に「都壽司」は江戸一流の職人を迎へて食通の皆樣方に御賞讃を頂きお蔭樣にて大繁昌をいたして居ります。
都壽司は魚榮と御思召して……御ひゐき下さる樣御願申上げます。
田町 魚榮 電話四二四番

御料理 八千代 平町田町 電話三七五番

吉田眼科病院 平町紺屋町

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院 (平町南町電一〇七番)

金銀高價買入
純金九圓十五錢買入
大判 廿二金八圓〇〇錢 廿金七圓〇〇錢 小判 十八金六圓四〇錢 金歯七圓三〇錢 以上
一匁ニ付
尚相當御持合せの方には特に御相談致します!。
金光堂時計店 平 電一九五

明治生命磐城代理店 山崎與三郎
お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋 山崎合名會社 福島縣平町 電話(本店二七番 營業部一〇番)

各國產漆器 專門卸小賣
共 漆器店
平町三丁目(元郵便局裏通り)
店員募集 十三四才位、小店員 三十才位迄、外交員
御贈答に! 記念品に! 諸景品に!
漆器を!!!
專門の共は 誠實勉强 親切第一 在庫豊富
ドコヨリモ、ヨイシナヲ、ドコヨリモヤスクウル、ヌリモノミセ

十日
体温計の検査日です
お宅の体温計は?
新設 檢査機
正確な体温計を御利用下さい……
毎月十日の檢査日を御利用下さい
度量衡計量器 体温計 指定販賣所
西村屋藥局 電三番

平町田町
高久病院 (電話五一三番)
醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽清 藥劑士 佐竹菊雄
內科 外科 小兒科 耳鼻咽喉科 花柳病科 レントゲン科

香味本位の本場銘茶を召上りませ……
平三丁目 電三九六番 大勝園

開店廣告
各位樣
イヨイヨ懸案中ノ『曙』ガ今日カラ開店致シマス御贔負ヲ願マス。
生粋江戸風ノ『釜めし』一釜金貳拾錢
時節柄特別勉强致シマス。
氣持ノ良イ小座敷御同伴歡迎致シマス
仕出しスグ配達いたします。御用命願ひます
田町實川醫院裏 あけぼの 電話二八二番

地質學的に觀察して 金銀鑛などは無い筈
仙台鑛山監督局の鑑定で 永戸の朗かな話影薄くなる

舊臘二十一日附を以て永戸村大字合戸字浮矢の人阿部嘉左衛門氏から附近の山奥十五萬八千五百五十坪に亘る金、銀、銅の鑛區を設定し仙台鑛山監督局に採掘權の許可方を申請した、最近この種の廣大な鑛區を設定し採掘を希望して來るものが多く、この裏面にはインフレ景氣を利用して成金の夢を追ふものが頗る多いので近い將來には成金希望者が失意のドン底に陷ることを鑛山監督局では今から心配してゐる、爾來大銀鑛を發見したと噂されるこの附近につき監督局では地質學的に見て、主として花崗、片麻岩、斑糲岩或は花崗閃緑岩から構成されてゐる地帶であるから硫砒、緑鑛があつても有望な銀鑛はない筈であるから期待はして居ない地質學的な裁斷を超越して噂の噂がもし事實とすれば結構な話であると目下の所問題にしてゐない

昔から曰く附の土地
出願者乘氣の由來

明けても暮れても金が凡てを支配する世の中であれば此ごろのインフレ景氣で各地金鑛發見のニュースを聞き、われも一つ天運にあやかりたいと他力本願に走る慾氣からトンだナンセンスが飛び出すに不思議はないが同地方はその昔笠間藩に屬しペルリ來訪の頃笠間藩では何の目的からか盛んに永戸村から銀を採掘したものである、現在舊坑道等は崖崩れのある度に各所から現れるといつた曰くつきの土地、その話を祖父から聞き傳へた阿部さん金の暴騰に刺戟を受けて俺が村にもこんなのがあるとてこの程東北大の近藤博士に金、銀の含有量分析方を依賴したところ金は左程でもないが銀は正に千分の三から千分の五を含み東北には類例がないものと折紙をつけられたとの話

御下賜金傳達
けふ久の濱で擧行

双葉郡久の濱町では十二日午前十時から町役場で災害救恤御下賜金百八十圓の傳達式を擧行した

凱旋兵 千百餘名通過
明日平町の各種團体が 長谷部旅團長以下歡送迎

第二師團凱旋兵長谷部旅團長並森尻隊長以下千百四十一名は明十三日午前五時五十分と十時十五分平驛着常磐線下りで通過するので町では各種團体中小學校生徒が沿線に堵列歡迎する事となつた

內郷信組 定時總會

內郷信用組合は屢報の如く先年山崎庫太郎氏が專務理事として就任以來頓に成績を向上し大に將來の飛躍を期待されて居るが來十五日午後一時から同村家政女學校に於て第十八回の定時總會を開催左記諸項を附議すると

七年度財產目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分、準備金及特別積立金を事業資金に運用、組合並組合員の最高限度借入額、定款變更、評定委員任期滿了改選

。。。。。

中堅農民講習 郡中堅農民講習會は來月一日から平團体事務所樓上で開く

產業組合協議

郡下二十六產業組合協議會は十五日午前十時から平團体事務所樓上に開催、組合法改正に依る有限責任を保證責任に變更の事務取扱ひ並に事業報告書株式變更に伴ふ調製上の注意及新年度記帳處理に就て協議する

幾分値上げして 前年同量を契約
樂觀さるる鐵道納炭

昭和八年度鐵道省納入炭に關する交涉は近く開始するが本年は民間の販賣統制機關たる昭和石炭會社が主としてこれに當る筈、數量は昨年度が實際需要高より一割餘多額に契約してゐる關係上今回は恐らく前年と同量の三百八十トンとなる模樣である、しかしてこれが販賣値段は最近各地における炭價値上げによつて幾分昨年より高値となるものと見られ一月下旬には決定の筈であるが右は本年度の炭價を支配するので一般から注目されてゐる

金馬簾授與
赤井、玉川兩消防組

赤井、玉川兩消防組では道路改修、貯水池設置、鐵骨火見櫓建設、林野火災防止標札設置に盡力した廉に依り今回何れも金馬簾を授與された

紅い氣焰
磐女で辯論會

磐城高女では生徒をして意見發表の機會を與ふべく來月中旬全校生の辯論會を開催する事に決定した

平商廿週年
來五月紀念式

平商業學校では來五月十一日が創立二十週年に當るので商友會後援の下に各種記念的の催を計畫中である

肥料傳習會

縣主催の肥料傳習會は今十二日午前九時から二日間神谷農試分場で開催、講師は田中縣農林技師郡山農試分場長辻技師である

贋鑛山王平署を脫走
仙台炭鑛の坑內深く潛り込み 大格闘の上再び逮捕さる

大鑛山王を氣取り口から出まかせの大法螺を並べて堅實な川瀨炭鑛主川瀨幸治氏等に散々迷惑を掛けた上東京市淺草區千束町三菓子卸商杉浦基之(三二)から六千七百圓名古屋市外長久手村城東鑛業株式會社專務齋藤理賢から一萬五千圓を詐取した外福島、宇都宮、茨城三縣を股にかけて多額の手附金を詐取して平署に逮捕された當時住所不定無職靑森市米町七五生れ詐欺前科一犯西澤忠作(四三)は客臘二十六日送檢したが更に餘罪發覺したので再び平署で嚴重取調中一昨十日午後七時頃便所に出た際監視巡査の隙を窺つて脫走し直に警官數名が追跡したが闇に紛れて管內巡査非常召集の警戒網を突破し新川畔道路から赤井村仙臺炭鑛に逃げ延び同坑內深く潛り込み同所から知人に便りした事から發覺昨曉大格闘の上逮捕された

嫁入りを前に盜む
着物欲しさの不心得か

內郷村大字御厩字上宿松田はる(一九)假名―は過般來平町鈴木眼科院四倉出張所に入院加療中昨十一日夜隣室の某患者から現金八圓在中の蟇口を竊取した事發覺目下四倉署の取り調べを受けてゐるが同人は客臘中緣談が整ひ樽入れ迄濟ました身で着物欲しさの仕業らしいと

罰金に不服
指嚙み男の公判

田人村字黑田蛭田卯太郎(三〇)は昨年七月三十日同町の蛭田清吾と口論の末手指に噛付き七十日の傷害を與へ平區から略式罰金五十圓を言渡されたが不服として正式裁判を申立てたので二十五日午前九時から平區に於て關口判事係、上田檢事關與、眞木辯護士立會公判開廷する

若い電工轢死
作業中誤つて機關車に觸る

內郷村宮町田二〇號ノ九磐城炭鑛電工夫荻長松(二二)は昨十一日午後五時頃町田電車停留所構內で作業中誤つて進行中の機關車に觸れ轢死した

十三日會

明午後六時半からマルトモホールで開催、正木磐女校長の『思想國難のあと』と題する講演がある

第三區校長會

郡第三區の學校會は二十日午前十時から國旗掲揚法に就て同敎務主任會は二十四日午前十時から兒童敎育上環境整理方案に就て何れも平第一小學校に於て開催する

。。。。。產組總會 一東、小川產業組合總會は二十二日、江名同上は二十八日何れも午後一時から小學校で開く

。。。。。東朝映畫公開 東京朝日新聞のトーキー映畫多門師團凱旋狀況、山海關事件は十六日晝夜二回平町聚樂館で映寫する

。。。。。鼠賊 田村郡三春町川前國之助(四〇)は郡內各所に於て竊盜を働き昨十一日平區に於て懲役三年を言渡された

。。。。。旅費を惠む 住所不定無職伊達郡茂庭村生れ鈴木善四郎(二九)は無錢飲食で平區上田檢事の取調べを受け微罪の爲七日釋放されたが懷中無一文なので平自營會では一泊させ旅費を與へて歸鄕せしめた

。。。。。山口敎員退職 平第一小學校の手工圖畫專科敎員山口重幸氏は家事都合上退職し今十二日午前十一時十八

平町慶弔錄

△出生 二丁目二七古山吉之助三女トク子 田町四八東京市板橋區板橋町三丁目二九四鈴木百世三男朗
▲死亡 久保町三六若松市榮町四丁目四三菅フキ(七七)

舊十二月十八日 金曜 新一月十三日 己卯 大安 滿 亢宿

諮判定應需 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一の白の人 內に在りて怠りなくば福德おのづから外より來る▲二黑の人 思はざる引立てに逢ふことあり但口舌注意▲三碧の人 輕卒に走りて意外の失敗を招く事あるべし▲四綠の人 困難多く容易に安全の域に入り難き注意日▲五黃の人 進むに宜しき日企業は永遠に榮ふる大吉日▲六白の人 柔順にして目上の言をそん重すれば引立あり▲七赤の人 無理を行ふ時は後日其の反動大に來るべし▲八白の人 此の日小さく始めし業も後日には大となる▲九紫の人 內も外も穩かならぬ日當業に忠實たるべし

磐中人國記 (三)
赤井嶽男記

第三回生の巻(續)

◇松村氏と性病研究

X光線、デアテルミーの開祖である彼氏は同時に平町に於ける胃腸科の創始者であつた、即ち先考高知翁の存命中東京麴町胃腸病院に於て、斯界の泰斗平山金藏博士に就き研鑽大に努め歸來ペンキの香も高く『胃腸科』なる隷書の看板を揚げ、途行く人の驚異を唆つた。其後性病の研究に志し仙臺病院に於て大に研究を積みその方面でも刻博なる造詣を有してゐると云ふ。奔放な性的遊戲の亂舞から不攝生なパートナによつて尿道のチクチクするやうな諸君は、宜しく〇×カフエーのネオンサインが明朗而して濃艶な瞬きを始める頃一つ思ひ切つて松村病院を訪れ給へ。と提灯を持つて置く。

第四回生の巻

植竹校長排斥騷ぎなどで些か稼大(?)の筆を揮つた爲第三回生迄の間に三十回のスペースを取つて仕舞つた。自分達の番の來るのにしびれを切らしてゐるであらう人達の爲に、興味本位の形容誇張を避け、此所らで第四回生に舞臺暗轉と出掛けやう。

◇卒業生の顏ぶれ

時正に明治三十七年。今を去る事三十年。出たのが第一回以來最少の三十五名で內十名が、あの世で『磐中に在りし頃』の座談會を開いて居るとは寔に無常迅速の極みである。先づいの一番が磐上左源太氏。磐崎村大字西郷字落合から往復五里を通ひとほして卒業直後水戸專賣局に入り、精勵格勤三十年一日の如く、今では平出張所長として數多い煙草小賣人に所謂生殺與奪の權を以て君臨してゐる。

◇財閥堀江氏、等等

三田を出た小澤昇氏(舊姓今泉、田村郡夏井村)は引續き東京の麻布に居をトして活躍して居り、頭腦の緻密を以て知られた東京高工專門部出身而して輜重兵中尉の箱崎淸一氏(湯本町水野谷)は、磐炭の機械技師として故倉田專務の信任を一身に鍾め、完全に功成り名遂げて昨年退職した。平町番匠町の堀江正茂氏は從弟加藤丈夫氏(第六回生)と共に多額納稅議員の互選資格者として今初夏の大平町議逐鹿場裡に輝かしき馳騁を豫想され、東京高工出身の渡邊謙藏氏(玉川村)は東京品川區大崎町で自身渡邊商會を經營し、同じ藏前を出た片寄庄五野氏(舊姓渡邊)は最に磐炭の技手として縱橫の才幹を揮ひ昨今では草野驛前で暢氣に商賣を營んでゐる。

○

仙臺醫專出のお醫者さん高萩桂次郎氏(箕輪村高野)は大正十一年の洪水で誠に氣の毒な災厄に逢つたが相渝らず順調な道程を辿りつつ內郷村に開業してゐる。

朗らかな仇討 (後)
(正月特別讀物) 村上時政作 森立男畫

妻のみちは、その手紙をうけとつて、とびつくやうにして讀み下したが。

『おゝ――』

思はず、よろこびの聲をあげた。

『成敗するなといふても、成敗せいでをかりよか。……身にも替へがたい大事なあの子をない者にした、につくい小倅……あなた、一寸だめし五分だめしづたづたにひきさいでやつてくださいませ』

『うろたへるな、馬鹿者』

矢代仁右衛門はげしく叱つた。

『先方が、かやうに武士道の義理をたてて潔く出てまゐつたからは、この方とてそれ相當の禮をもつて對さねばならぬ。……事は同志のいさかひぢや。充分調てかゝらねば人の嘲りを招かうぞ……』

仁右衛門は、召し使ひに命じて新之丞を招き上させた。

さうして、別室で新之丞からくはしいことのありさまをきいたのだつた。

きいてみれば、自分の倅に非がある。……

仁右衛門も、流石に家老職だけのことはあつた。

『ふうむ。……では、非はこの方の倅にこそあれ、そなたにはないのぢや……』

『けれど』

新之助は壘の上に手をついた。

『人を殺して、自分一人生きてゐる法はございませぬどうぞお手にかけてくださいまし……』

仁右衛門の目に淚が浮んだ

『そなたは、いくつぢや』

としづかに訊ねた

『十三才に相成ります』

『すれば、欣之丞どおなじ年ぢやな……これまで育て上るには其なたの御兩親はどのやうに苦勞されたことぢやらう』

『……父が、さう申しました』

新之助は、いつた。

『自分のところには、お前の上にまだ二人も兄がゐる矢代殿には欣之丞殿のほかには男の子といつては誰もない、其れをおもへば猶ほのことお前をこのままにしてをくことは出來ぬ!死ね!死んでくれ、……と、かやうに申しました』

『おゝ父上は、そんなことまでいはれたか』

この時、ふいに廊下に小い足音がしてはいつてきたは、欣之丞の妹のおみつだつた。

『お兄ちやま!』

いひつつ、新之助のうしろから抱きついた。が、人ちがひと知ると、はじかれたやうにはなれてベソをかきだした。

『はゝゝゝ人違ひの兄ちやまでびつくりしたな』

仁右衛門は泣き笑ひをつくつてかういつたが、其の時ふいに彼の頭にある考へが浮んだ。

『おみつ……』

から呼びかけて

『お前の兄ちやまは、遠くへいつたから、當分は歸つては來ぬかも知れぬ……其の代り……其の代りな』

と、仁右衛門はいひついだ。

『この方が、明日から兄ちやまになつてくださる!』

『まあ、この人が兄ちやま?』

おみつは、新之助をぢいつとみつめてゐたが

『うれしいわ……』

魂の呼ぶ聲をきいたか、おみつは叫んだ。

『この兄ちやまは、欣兄ちやまよりやさしさうだわ』

×

其の翌日、中尾新八郎を訪れた仁右衛門は、改めて新之助を養子にもらひうけたい、と談じこんだ。新八郎も異議はなかつた。

其の承諾をうると、仁右衛門は朗らかにいつた。

『――これが、拙者の仇討でござる』

(をはり)

外科全般 醫學博士 渡部義夫
渡部外科 (入院應需)
平町田町大通り (電話二七七)

破魔弓と羽子板を陳列致ました……!
御子さまの御祝から
三十二年の不景氣魔を破り?
三十三年の景氣を羽根ぐる?
○是非御子様の御祝盛んに致しませう。
スガノヤ提灯店
平町四丁目 電話九五番

耳鼻咽喉科專門
山内醫院
平町田町七〇番地
醫學士 山内亨吉
電話 六九一番
入院隨意 病室完備

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、專門
平町南町 (元眞木辯護士跡)
增田耳鼻咽喉科醫院
電話 四八二番
(入院隨意)